

2025年度 EPA 関税認定アドバイザー 養成講座 シラバス

1. 開催期間及び時間

2025年6月10日(火)～6月13日(金) ※ 各日とも 09:30～17:00

2. 開催方法

- ①日本通関業連合会会議室(原則対面)
 - ②大阪会場(民間会議室を予定:原則としてオンライン)
- 上記①と②の会場によるハイブリッド形式での開催。

3. 養成講座の内容

【養成講座のスケジュール概要(案)】

開催日	場所*	コマ数**	講義名
6月10日(火)	対面/サテ	1回	① WTO 協定と EPA 動向
6月10日(火)	対面/サテ	2回	② 経営戦略と関税
6月10日(火)	対面/サテ	1回	③ EPA 特恵関税活用(分野別・酒類)
6月11日(水)	対面/サテ	2回	④ 企業会計基礎
6月11日(水)	対面/サテ	2回	⑤ EPA 特恵関税活用(分野別・自動車部品)
6月12日(木)	対面/サテ	1回	⑥ EPA 特恵関税活用(分野別・繊維①)
6月12日(木)	対面/サテ	1回	⑦ EPA 特恵関税活用(分野別・繊維②)
6月12日(木)	サテ/対面	2回	⑧ EPA 活用における企業課題と対応策
6月13日(金)	対面/サテ	2回	⑨ EPA 特恵関税活用実務(原産地規則編)
6月13日(金)	対面/サテ	2回	⑩ EPA 特恵関税活用実務(関税分類編)
合計		16回	(=24時間)4日間

*場所の左は東京会場、右は大阪会場で、「対面」形式と「サテ」はリアルタイム・オンラインのハイブリッドで実施。

**1コマ90分。

【時間割】①09:30～11:00、②11:15～12:45、③13:45～15:15、④15:30～17:00

(注)成績評価は、後日受講者から小論文を提出してもらう。小論文のテーマ(3つ程度)の中から選択。

【養成講座のシラバス(案)】

科目名	① EPA 認定アドバイザー制度・WTO 協定と EPA 動向		
講師名	財務省経済連携室 室長 香川 里子氏		
講義目標	<ul style="list-style-type: none"> ● WTO 協定及び EPA の概要を理解できる ● 最新の EPA 交渉や、EPA の活用状況について理解できる 		
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ● EPA 認定アドバイザー制度と EPA 支援 ● WTO を中心とした多角的自由貿易体制と例外としての EPA ● 最新の EPA 交渉状況 ● EPA の物品貿易章、貿易円滑化章、原産地規則章の概要 ● EPA の活用状況 ● 諸外国税関との連携 		
使用テキスト	パワーポイント	単位数	1(90分)

科目名	② 経営戦略と関税		
講師名	旭化成(株) リードエキスパート(通商)、経営企画部部付 田中 雄作氏		
講義目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 通商環境の概観や変化を理解し、説明できる ● 関税マネジメントの価値を理解し、指導できる 		
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 通商環境概観 ● 通商環境変化と事業インパクト ● 関税マネジメントの価値 ● 企業の通商戦略(通商環境・ルール変化への対応策) ● 通商・関税人材 		
使用テキスト	パワーポイント	単位数	2(180分)

科目名	③ EPA 特恵関税活用(概況) 分野別(酒類)		
講師名	国税庁酒税課酒類業振興・輸出促進室 課長補佐 田村 雄貴氏		
講義目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 我が国のお酒の概況および EPA 活用状況や課題を理解できる 		
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 我が国における種類の輸出概況 ● 酒類の輸出における EPA の活用状況や課題 		
使用テキスト	パワーポイント	単位数	1(90分)

科目名	④ 企業会計基礎		
講師名	明治大学商学部 前田 陽 教授		
講義目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業会計と関税の関係を理解できる ● 簿記の基礎概念を理解できる ● 損益計算書の分析により、企業の収益やコスト構造が理解できる 		
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業会計と関税 ● 簿記の基礎概念(資産、負債、資本、収益、費用) ● 損益計算書と貸借対照表の関係 ● 商品の売買と、売買取引の処理 		
使用テキスト	パワーポイント	単位数	2(180分)

科目名	⑤ EPA 特恵関税活用(概況) 分野別(自動車・部品)		
講師名	㈱アイシン 主査兼 FTA 戦略推進グループ長 清水 一氏		
講義目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 自動車・部品産業の概況および EPA 活用状況や課題を理解できる ● 自動車・部品分野における EPA の関税分類実務を理解し支援を実施できる 		
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 我が国における自動車・部品産業概況 ● 自動車・部品分野における EPA の活用状況や課題 ● EPA 特恵関税活用実務(原産地規則(関税分類変更基準、付加価値基準他)) ● 事後確認・保存書類 等 		
使用テキスト	パワーポイント	単位数	2(180分)

科目名	⑥ EPA 特恵関税活用(概況) 分野別(繊維①)		
講師名	日本繊維輸出入組合ロジスティクス委員会 委員長 川合 利直氏(P)		
講義目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 我が国の繊維製品の概況および EPA 活用状況や課題を理解できる 		
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 我が国における繊維産業の輸出概況 ● 繊維分野における EPA の活用状況や課題 		
使用テキスト	パワーポイント	単位数	1(90分)

科目名	⑦ EPA 特恵関税活用(概況) 分野別(繊維②)		
講師名	国際貿易コンサルタント 石丸 朱氏		
講義目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 我が国の繊維製品の EPA 活用の際の関税分類と原産地規則について理解する 		
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 繊維製品の EPA 活用の際の関税分類と原産地規則 ● EPA 活用における実務上の留意点 		
使用テキスト	パワーポイント	単位数	1(90分)

科目名	⑧ EPA 活用における企業課題と対応策		
講師名	近畿大学経営学部商学科 准教授 石川 雅啓氏		
講義目標	● EPA 活用における企業課題と対応策を理解し対応できる		
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ● EPA 活用における企業課題 ● 諸外国税関における EPA 手続 ● 企業課題への対応策 		
使用テキスト	パワーポイント	単位数	2(180分)

科目名	⑨ EPA 特恵関税活用実務(原産地規則編)		
講師名	ROO コンサルティング代表 今川 博氏		
講義目標	● EPA 特恵関税活用実務(原産地規則)を理解し実施できる		
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 顧客の視点に立った原産地規則(必須の日本国 EPA 規則、顧客に深く食い込むための第三国 FTA 規則、次のステップとしての非特恵規則など) ● 開発途上国税関における関税徴収の傾向 ● 通関士だからできる原産地管理 		
使用テキスト	パワーポイント	単位数	2(180分)

科目名	⑩ EPA 特恵関税活用実務(関税分類編)		
講師名	貿易・通関コンサルタント、日本関税協会講師、WCO 認定専門家(HS 関税品目分類)、UNEP(在ジュネーブ事務局)アドバイザー 尾本 薫氏		
講義目標	● EPA 特恵関税活用実務において、求められる関税分類(HS 分類)の基礎知識とその応用について理解し実施できる		
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ● EPA における関税分類の基礎 ● 品目分野毎の HS 分類の特徴 ● EPA 特恵関税活用実務(関税分類の知識を利用することによる原産地規則を満たすことの確認をより簡素化・最適化する工夫・方策) ● 相手国税関による HS 分類の解釈の相違を避ける方策((相手国税関と交渉する場合や事前教示照会をする場合の、商品説明書、分類意見書の書き方等) 		
使用テキスト	<p>パワーポイント (参考図書)</p> <p>原産地規則と品目分類(HS 番号の確定から原産地証明書の作成・保存まで) (出版元:日本関税協会)</p>	単位数	2(180分)